

郷土の伝統音楽の再生を担う学生参画による《貝殻節》の教育実践

【概要】

「小学校学習指導要領」では、「それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本の歌を含めて取り上げるようにすること」と規定され、今日の音楽教育において、郷土の伝統音楽の指導が求められている。しかしながら、民謡には独特の発声を必要とするため、郷土の伝統音楽を実践できる教員はまだ限られている。

そこで本研究では、鳥取県の代表的な民謡である《貝殻節》と地域との関係に着目し、郷土の伝統音楽の継承ならびに教材化の動向に関する調査・研究を行う。その際には、学生も参画し、地域の人から《貝殻節》を習い、郷土の伝統音楽の継承者として育成する。さらに、小学校において《貝殻節》の実践を学生が行い、郷土の伝統音楽の指導法についても検証する。

【キーワード】 《貝殻節》 郷土の伝統音楽 学生参画 地域 教育実践

【参加メンバー】 地域学部 地域教育学科 准教授 鈴木慎一郎（総括）
地域学部 地域教育学科 学生（調査・実践）

【計画】 平成 25 年度 先行研究の検討、《貝殻節》に関する調査・研究（音楽の視点から）
平成 26 年度 学生参画による《貝殻節》の習得、《貝殻節》に関する調査・研究
（教材化の視点から）
平成 27 年度 小学校における《貝殻節》の教育実践ならびに検証、総括

【地域連携先（予定）】 気高町、浜村温泉